



編集長便り

新学習指導要領対応教材『We Can!』は画期的

生活に密着した単語・表現が豊富

次期学習指導要領での英語の難化に対応していくため、小学英语は2018年度から移行措置または先行実施が行われることになりました。文部科学省では新学習指導要領対応教材『We Can!』（小5・6年用）を制作し、2017年9月にサンプルをホームページ上で公表。その内容は、これまでの英語の教育観から大きく変化しています。

まず特徴的なのは、日常生活の中でよく使われる単語が重視されていること。月、曜日、数、国名、頻度を示す副詞や、「take a bath」「leave my house」「walk my dog」など、生活に密着した単語や表現が幅広く豊富に入っています。

しかし、中には「calligraphy club」（書道部）、「astronaut」（宇宙飛行士）など、大人でも戸惑ってしまう単語も含まれていました。

次期学習指導要領では小学校で600～700もの単語を学ぶことになっていますが、どの単語をどのレベル（意味が分かる、スペルも書ける）まで習熟すればよいかは明言されていません。たとえば、将来宇宙飛行士になりたいなら「astronaut」は書けるようになっておきたいですね。そうした1人ひとりの習熟は、後に英語4技能を見る検定試験にもつながっていくはずです。つまり、1人ひとりの単語の使用頻度は異なるため、曖昧にされているのだと思われます。

アクティビティを通じた理屈抜きのインプット

もう一つの特徴として、新テキストはイラストが中心となり、ほとんど文章がないことが挙げられます。一見すると簡単そうに見えますが、実はその裏に膨大な量の単語と文章が隠れています。というのも、このテキストはアクティビティを通して習得を図る単元構成となっており、リスニングの比重がとても高いのです。文や単語の仕組み・ルールについての解説もなく、理屈抜きのインプットを狙っているのでしょう。

また、以前なら考えられないことですが、リスニング部分に

は小学校では扱わない単語も含まれていました。これは実践的な英会話を想定しているからだと思われます。たとえばネイティブスピーカーと話す時、知らない単語が多くてもポイントになる言葉が分かれば意思の疎通は図れるものです。リスニングには、それを意図したと思われる例文がたくさんありました。

この新テキストは、おそらく100%マスターすることは意図していないのでしょう。繰り返し学ぶことで、中学までにある程度習熟することを目指しているのだと思います。

学習塾に求められる役割

中学1年生を対象にした調査で、小学校の外国語活動で学習しておきたかったことは何かと聞いたところ、「単語・文を書くこと」「単語・文を読むこと」が挙がりました。小学校の時は歌や会話ばかりで楽しかった英語が、中学では読み書きが必須となるため、早い段階で学んでおきたかったと感じているのです。また、そうしたつまずきが原因で英語嫌いになってしまう生徒もいます。

『We Can!』は、これまでの英語教育の常識を覆すとても画期的なテキストです。しかし、アクティビティ主体の授業を受けたあと、家庭でどのような復習をすればよいのでしょうか。「今日の学習内容は何だったかな？」と戸惑う子どもがたくさん出てくるでしょう。その時、『We Can!』で扱われる表現を用いた学習塾用の教材が役立つはずですよ。たとえば「月や曜日などを英語で書く時には頭の文字を大文字にする」、そんな細かいことも含め、教えるべきルールはたくさんあるのです。

学校の授業では行われない文法や書き取りの指導は、学習塾でのフォローが求められるでしょう。アクティビティ中心の授業はリスニング力をつくかもしれませんが、4技能をバランス良く身につけるためには書く練習も重要です。学習塾が小学英语にどう向き合っていくかは喫緊の課題なのです。

（教材編集長 上野伸二）

編集長の

ここですよ
ポイント

新学習指導要領対応教材『We Can!』（小5・6年）のポイント

- 学ぶ単語の数は600～700。月、曜日、数、国名、頻度を示す副詞など、日常の中でよく使う名詞や動詞を重視。
- 絵が中心で説明文はほとんどなし。アクティビティによる学習を前提とし、リスニングを重視。

▶ 『We Can!』で学習する語句・表現をマスター！ [ワーク英語](#)（小5・小6）の詳細はこちらをクリック！

▶ 2018年度から始まる小学英语について分かりやすくまとめた [まるわかりブック](#) vol.28「いよいよ小学校でも本格的な英語がスタート?!」の詳細はこちら！